

TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第38号 2018年12月1日発行

2018/12/1～2019/1/15 クラウドファンディング行います！

寄付サイト <https://japangiving.jp/campaigns/33927>



宣伝・拡散に、ご協力をお願いします！

- p1・・・都内唯一の完全個室型シェルターを守りたい！クラウドファンディングの呼びかけ
 - p4・・・TENOHASI夏祭り報告
 - p5・・・元「ホームレス」早稲田で語る！
 - p7・・・当事者インタビュー「アパートに入れた日はうれしくて走り回った」アキオさん
 - p11・・・支援者インタビュー「『おかしくないか』って思うことが全ての根源！」
世界の医療団 畔柳奈緒事務局長
 - p19・・・2018年総会報告 その2 生活応援 夜回り
 - p22・・・資金・物資のカンパありがとうございました！
- 裏表紙・会報誌web版のお知らせ/TENOHASIの活動

都内唯一の完全個室型シェアター (支援付き住宅)を守りたい！

資金カンパを募集する”クラウドファンディング”の
呼びかけ文を掲載します。



初めまして、特定非営利活動法人TENOHASI事務局長の清野賢司です。

TENOHASIは、2003年から池袋で活動を開始し、ホームレスの人たちのための炊き出し・夜回り・生活再建の支援を行ってきました。

2016年から民間アパートを利用した「シェアター(支援付き住宅)」を運営し、2年8ヶ月の活動のなかで25名の人が路上生活を脱することができました。

しかし、このシェアター運営の財源となっていた庭野平和財団か

らの助成金が昨年で期限を迎えて、これまでと同じ活動が困難になりました。

これまでの支援活動を維持するためには、2018年度は100万円〜200万円程度不足しています。

TENOHASIの活動資金は、そのほとんどを皆さんからの寄付で賄っています。安定したシェアター運営を行うために、みなさんのご協力をいただけないでしょうか。

ご支援よろしくお願いします。

・日本の「ホームレス」の現状

厚生労働省の調査*では、日本の「ホームレス」の数は2012年の9576人から、2018年の4977人に減少しているとされています。

*厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査」

確かに以前と比べるとホームレス生活をしている人は減りました。では、このまま行けばいずれホームレス生活の人はゼロになるのでしょうか？

それは難しいと思います。なぜなら、今の「ホームレス」支援施策に大きな穴があるからです。

・生活保護から再びホームレスに

ホームレス生活から脱する手段として最も多く利用されているのが生活保護です。生活保護で衣食住を確保できればホームレスから脱することができるはず……。

ところが、ここで問題が起きます。せっかく生活保護を受けたのに、自分から住宅を飛び出して再びホームレスになってしまう人が後を絶たないのです。

なぜ？ 私たちも最初は疑問でした。「ワガママなんじゃないか」とも思いました。しかし、そのような人たちが接しているうちに、何らかの障がいを抱えているのではないかという感触を得ました。

・ホームレス状態の障害者

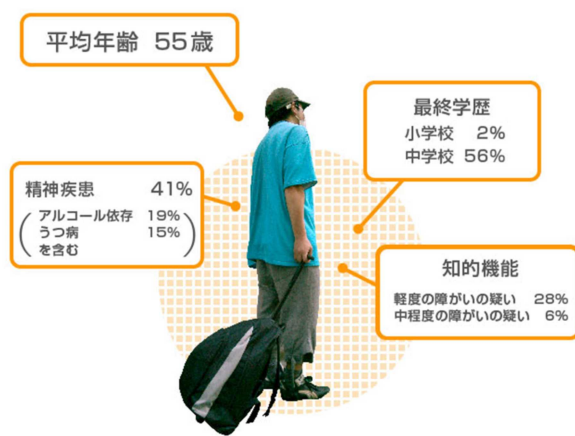
2008〜2009年に、池袋で出会う路上生活者を対象に調査したところ、次のページのようにな驚くべき結果が出ました。

障がいには、知的障がいのように生まれつきのものや、ストレスから来る鬱病のような後天的なものもあります。さまざまな障がいを抱えた人が路上で暮らしているのです。

助成金が切れて苦戦しているTENOHASIの活動資金を集めるために、クラウドファンディング(インターネットの寄付サイトで多くの方に寄付を呼びかける)を行うことにしました。

期間は12月1日から1月15日、100万円を目標にJAPANGIVING(ジャパングビング)というサイトでいきます。ロコミ・SNS等で宣伝して下さいますようお願い申し上げます。

*ただしクラウドファンディングだと5%の手数料がかかるので、会報誌を見た皆さんは郵便振替、またはTENOHASIホームページからクレジットカードで寄付していただくと助かります。



調査対象路上生活者 164人

・宿泊所に問題が：

なぜそのような人が生活保護を受けてもまた路上に戻ってしまうのでしょうか。

その理由として最も多いのが、生活保護で提供される住宅の問題です。

首都圏で「住所不定」状態の人が生活保護を申請すると、ほとんどの場合、福祉事務所は当面の住宅として、アパートではなく「無料低額宿泊所」と呼ばれる民間経営の寮を紹介します。

部屋は2〜4人の相部屋やビルのワンフロアに2段ベッドがずらりと

とならぶようなところで、見知ら

ずの人との共同生活です(次ペー

ジの写真参照)。プライバシーが

守られる安全な環境とは言えま

せん。また、「無料低額」という名

前とは裏腹に多額の利用料がかか

り、生活保護費のほとんどを徴収

されます。飲酒禁止、門限17時

などの厳しいルールがあり、破る

と退寮⇨生活保護廃止とされて

しまいます。

経験者の声です。「何も悪い事

してないのに何であんなに

管理されなきゃならないん

だ「ヤクザみたいなのに脅

かされて逃げてきた」「手元

に残る金が1日数百円。こ

れじゃ、仕事も探せない」:

・宿泊所から逃げ出す

このような寮が東京・千葉

・埼玉・神奈川だけで402

カ所あり、12303人*が

暮らしています。

*厚生労働省「無料低額宿泊事

業を行う施設に関する調査に

ついて(平成27年調査)」。利用者

のほとんどが生活保護利用中の人です。

障がいを抱えて、不安な気持ち

を抱えて、大きな声や大きな音に

苦手さを抱えた人にとってはとて

も耐えられない環境ではありませ

ん。

今、ホームレス生活をおくって

いる人のほとんどは、「かつて生活

保護を受けたけれど逃げてきた」

という人か、「生活保護を受ける

とどんな住宅を紹介されるかわ

かっているので受けない」という人

です。

生活保護を受けた回数が10回

以上という人は珍しくなく、「東

京23区すべてで生活保護を受け

て、全部逃げてきた」という笑え

ない経歴の人も居ます。

・なぜアパートじゃないの？

なぜ福祉事務所はそのような

住宅を紹介するのでしょうか？

質問するとたいいてい「路上生活

をしていた人がアパートで暮らせ

るかどうか、寮でしばらく生活の

様子を見せて貰います」という答

えが返ってきます。寮で数ヶ月か

ら、長いと数年生活するとようや

く「アパート生活ができる」と認め

られて、ご自分のアパートに行け

るという仕組みです。でも、私たちは思います。

「アパートで暮らせるかどうか知
りたかったら、実際にアパートに
住んでもらった方がわかるんじや
ないですか」と。「アパートより集
団生活の寮のほうがいいという人
に会った事はありません」。

・「普通の暮らし」のニーズ

多くの人が、社会復帰をしよう
とする行動に対する束縛がない、
安心出来る「普通の暮らし」を望
んでいます。

今年、28人の路上生活者(元
路上生活者を含む)に対して住宅
ニーズについてインタビュー調査を
行いました。その中で「住みたい住
宅のタイプ」について聞いたところ、「個室アパート」希望者が24



二段ベッドの宿泊所 by 探偵ファイル

人、「一軒家」3人、その他が3人。
無料低額宿泊所を希望した人は
0人*でした。

*大同生命厚生事業団平成29年度地
域福祉研究助成「ホームレス状態の
方々への住宅支援のありかたに関す
る調査研究」

・シェルター(支援付き住宅)の取
り組み

TENOHASIIはそのニーズに
応えるべく「ハウジングファースト
東京プロジェクト」を連携団体と
共に開始し、普通のアパートを利
用して「シェルター(支援付き住
宅)」事業を2016年春から実施
することにしました。

連携団体の「つくろい東京ファン
ド」が物件の確保を行い、TEN
OHASIIが利用者の支援を行
います。

現在、路上生活から民間アパ
ートへ入居する準備を整えるた
めの短期的な「シェルター(支援
付き住宅)」を5室、障がい者や
高齢者の長期的な住宅として3
室を運営しています。

シェルター利用希望者はTEN
OHASIIと相談し、賃貸利用契
約を結んでから生活保護を申請
して、TENOHASIIの支援を受

けながら数ヶ月間シェルターで生
活します。そして福祉事務所から
「アパート生活が出来る」と認め
られた段階で、生活保護でご自分
のアパートを契約するという仕組
みです。

この2年8ヶ月の活動のなかで
25名の方がシェルターを利用し
て路上生活を脱することができま
した。

ある利用者は、シェルターに入
居したときの気持ちをこう話して
くれました。

「普通、集団生活で何ヶ月か待機
してからアパートなのに、路上か
らダイレクトにアパートというの
は何千人に1人というラッキー。
俺にも運が回って来た」。

・シェルターを守るために

私たちはこの事業が首都圏全
体に広がることを目指していま
す。しかし、路上から直接入居出
来るアパートは、私たちの知る限
り、東京23区内では現在私たち
が運営しているシェルターだけ
です。

この事業を続けていくために様
々な資金がかかります。アパ
ートの敷金礼金や更新料、シェルター
が空いている時の家賃などを全て

TENOHASIIとつくろい東京フ
アンドで負担しており、支援に当
たるソーシャルワーカーの賃金と
活動資金も必要です。

今まで、みなさまからの寄付金
に加え、2015年から庭野平和
財団からの助成金を受けて活動
資金をまかなってきました。しか
し庭野財団の助成が3年間の期限
を迎え、今年度からみなさまから
の寄付金だけが頼りとなっていま
す。

様々な障がいを抱えて、今も路
上と宿泊所をさまよっている人
が、東京・千葉・埼玉・神奈川だけ
で、まだ数千人はいます。

1人でも多くの方が1日でも早
く自分らしい普通の暮らしを取
り戻せるよう、ご支援をよろしく
お願いします。



シェルターにて

2018年8月12日 TENOHASI夏祭り報告



今年も8月第2土曜に炊き出し&夏祭りを行いました。

会場の東池袋中央公園では、お昼のそうめんの配食後に、慰霊祭が行われ、路上生活者の方など多くの方にお集まり頂きました。

慰霊祭では、この1年間で亡くなられた4人に、みんなでお祈りを捧げました。

事務局長清野さんから、4名の方お一人ずつの出会いから別れまでのお話を頂きました。

お一人は池袋西口公園で路上生活をされていましたが病気が悪化して亡くなられました。

残りの方々は路上を脱してアパートで生活されていましたが、お二人はアパートで突然の最期を迎えられ、お一人は病気が苦しくて自死を選ばれました。

式典は、キリスト教式と仏教式の2通りで執り行われました。牧師さん、僧侶さんにお話頂きました。みんなが讃美歌を歌い、お経をお唱えしました。

牧師さんが力強くお話されていた、「与えられた命を精一杯生き抜くこと」という言葉が非

常に印象的でした。

慰霊祭が終わった直後、いきなりのゲリラ雷雨に見舞われた為、雨宿りをして、雨が弱まるのを待ちました。

衣類配布とスイカ割りには、中止となりましたが、新人Hソケリッサさんのパフォーマンスは、なんと大雨の中、行われました！

「新人Hソケリッサ」とは、路上生活者及び経験者から成るダンスグループです。大迫力のパフォーマンスでした！

ソケリッサさんの大迫力パフォーマンスのおかげか、無事雨も上がり、続いて大塚モスクさんの本格カレーの配食です！大塚モスクさんは今年もカキ氷も提供

してくださいました！本当に感謝です。カキ氷は、さきほどの大雨の中でも、大盛況で行列ができていました！

カレーと共に、



用意した35升のご飯も無事に配り終えました。

参加したボランティアは50名弱。

先日、夜回りに参加した大学生の方々も見学に来ていて、僕もやりたいです！と、大変積極的にお手伝いをしてくれていました。将来、ソーシャルワーカーを目指しているそうで、とても頼もしく感じました！

今年の夏祭りを通して、非常に多くの方々の支援があつてこそTENOHASIだと、改めて感じる事ができました。

*ブログより転載

元「ホームレス」、早稲田で語る！



亀ちゃん（亀田さん）

どうでしたか？

学生さんたちみんな事前に先生と一緒に炊き出し・夜回りに来てくれているので、とても熱心に聞いてくれて、満足してくれたのがうれしかったです。

みんなが僕を見て時に感動した顔をしたり、時に笑ったりと、いい経験になりました。

辛いことも語ったと思いますが、

僕にとってそんなに辛いことではなかったので大丈夫です。

うまく授業出来ましたか？

感想を読んだら、僕の話に感銘を受けたとか、波乱万丈の人生とか書いてくれてますから、うまく言えたと思います。



感想で心に残ったことがありますか？

全部です。二文字屋さんの授業がいかにも優れているかと言うことですよね。僕自身が感銘を受けました。

今後機会があつたらやりたいですか？

ええ、是非。

〈学生さんの感想より〉

・路上生活者としての生活に疲れ果て、自殺を企図することがあったものの数年間もの間、トイレの水をシャワー代わりにしたり、コンセントをゲーム機の充電に充てたり、電車を稼ぐために長距離を徒歩で移動するなどの具体的なお話を聞くことが出来ました。

「炊き出しを受け取っている身分でわがままかもしれないが、誰の力も借りずに自力で生きていこうと決意していた」という言葉が胸に突き刺さった。

・亀田さんのライフストーリーは、おもしろいといってしまうと失礼に聞こえてしまうのですが、本当に楽しい時間でした。以前炊き出しで一緒にした時もそうでしたが、自殺まで考えられた厳しい人生をこんなにも楽しそうにお話しする亀田さんの姿に驚かされます。一方で、亀田さんのなかの譲れない部分について今日初めて話を聞かせていただきました。話しの節々に出てくる「人として」というキーワードにも、亀田さんのこだわりを感じます。

・亀田さんは以前夜回りをしたときにお話しをたくさんしたので、すごく覚えていました。亀田さんが何度も言っていた言葉は「人はおぎゃーと生まれて人間であり人。ある程度のレベルを落としてもそれ以下にはなりたくない。ホームレス状態から抜け出せなくなっちゃう。」自分人間であるというプライドや、亀田さんの中での人間としての基準がよく分かることばだと思いました。

亀ちゃん・なべさんの2人は、元路上生活から今やTEENOH ASIの主力のボランティア。それが早稲田大学の先生に呼ばれて、1人90分の講義をやらせてもらいました。講師を務めた二人と学生さんの感想です。

なべさん（渡辺さん）

どうでしたか？

生活保護申請をした人に役所が紹介する施設が、六畳間で二人が寝る相部屋とか、二段ベッドを並べて40人部屋とか、そういう所だということに学生さんたちがびっくりしました。

それで生活保護のお金をみんな持って行かれて手元に残るのが1ヶ月五千円だけということを知ったら、二文字屋さんが学生に「どう思う？」って聞いてく



れたんですよ。そしたらみんな「無理」って(笑)。

僕が路上生活20年というところにもびっくりしてましたが。

講義が終わった後、どんな気分でしたか？

こういう話をするのは辛いけど、学生さんたちが事前に夜回りに来てくれて状況を見てくれていてるので、現状を知ってもらいたいと思って話しました。

自分が20年間苦労したことを知ってもらって、今も現状が厳しいことを知ってもらえたので良かったです。

なべさんは今までも何回か授業をしています。話すのは好きですか？

いや、どこまで話をしたらいいか、最初は迷いますよ。でも現状を知ってもらいたい。過去の苦労や辛かったことも。

質問を入れてもらうと語りやすくなって助かります。

学生さんたちの反応はどうでしたか？

学生さんからも二文字屋さんからも「いい話をありがとうございました」って言葉をもらったんですよ。話してよかったなと思います。

また依頼が来たらやってみますか？

考えさせて下さい(笑)。内容によって考えます。今やっている生活や活動についてもやりたのかな。

路上にいた頃、いずれ自分が大学で講義すると思いましたが？

思っていないですよ。誰も予想出来ないです(笑)。

でも最近、ネタがなくなってきたでしょ。ネタを仕入れるために一度路上に戻ってみますか？

絶対にイヤです！



〈学生さんの感想より〉

・渡辺さんの話を聞いて、ホームレスの人がホームレスから脱するときの流れがわかり、興味深かったです。生活保護があるから抜け出すと思えば抜け出すのは簡単だと思っていました。施設環境があまり良くないために難しくなっています。現在の現状を知ることができました。ホームレスになる理由は様々だと思いますが、渡辺さんのようにコミュニケーションが苦手などのことからルールの多い社会で生きていくことが難しくなった人は多いのではないかと思います。それにも関わらず、一般社会に戻るために最初に行くところがルールが厳しく風通しが悪い施設なのは問題だと思いました。

・ホームレスになったら他のホームレスと協力して生きていくのかと想像していたが、人間関係の難しさや情報を教えてくれなかったりなどの話を聞いて、会社で働くよりも苦勞しそうだと感じた。

「社会問題とボランティアα」『ホームレス問題』から考える」早稲田大学平山郁夫ボランティアセンター 二文字屋脩先生

アパートに入れた日、うれしくて走りまわった

アキオさんは、パン作り・大人食堂などの日中活動の中心メンバーの1人。普段ははにかみ屋で言葉少なですが、ここぞという時の親父ギャグと、へんてこTシャツのコレクターという笑えるアイテム満載のゆかいなオジサンです。

よろしくお願いします、アキオさん。いま、何歳でしたっけ。

47歳です。

田舎ってどこですか？

田舎は山梨です。甲府からバスで50分くらいのところ。家族は両親と姉が二人。親父が身体が弱くて家で内職してて、おっかあが近くの工場で仕事してました。

学歴は恥ずかしいことに中学校まで。頭があんまりよくなかったから、小学校の途中から特殊学級に行って中学卒業までしました。知的障がいの手帳があ

るなんてそのとき知らなくて、大人になって池袋に来てから戸口さんに助けってもらって取りました。

家が貧しかったら、中学校の先生から「おめえはもう働け」と言われて、中学を卒業したら、近くの工業団地にあった家具工場に就職しました。仕事と言っても難しいことはしない。一番最後の梱包だけ。家にお金を入れるために7年くらい真面目にやっただけです。何年やっても給料が全然上がらない。残業しても増えるわけでない。ある時「残業しろ」と言われたけど無視して定時の5時半に上がった。社長が追いかけてきて「おめえなんだ！」って怒るから「残業嫌いなんです！」って言い返して、結局やめてしまいました。

酒は、15歳で工場に入ったばかりのころ旅行があつて社長に酒を勧められて、それから飲みだしました。タバコは二十歳過ぎから。会社の人に「吸うかーっ」と一本もらった。それか

ら。

次に同じ工業団地の缶工場に行ったけど。3年くらいで社長が破産しちゃった。俺らから預かった税金とかを使い込んでたんです。ある晩に社長から電話が来て「明日から休んでくれる？」。翌日行ったらもう閉まっていた。

その後、また家具工場に行っただけ1年くらいでやめて、26歳から登録型の日雇い派遣。前の晩に電話で「明日仕事ありますか」って聞いて、言われたところに行くんです。仕事は倉庫の検品とか、コンテナから荷下ろしとかの流通系。給料は日払い。お気楽です。今日はここだけ明日はあっち。何かやなことがあつても「もう明日は来ないからいいや」と。

仕事が少ないと電話かけても「ありません」って言われるけど、ほんとに忙しくなると逆に会社から「明日来れますか」って電話が来るんです。ある時なんか夜になつても仕事が終わら



なくて「明日仕事あるから帰してくれ」と言っても「今帰られたら困る」って言われて結局朝まで。次の日の現場？休みましたよ。無理。

仕事はあつたりなかったりだったけど、自分の田舎だから家があつて飯も食えたんで、ちょうど40歳までやりました。

なんで山梨を出たんですか？

2011年の震災がきっかけです。結構揺れたでしょ、あんどとき。家が古いからぎしぎしとすごい音がして今にも潰れるんじゃないかと思って、怖くて怖くて。家族に黙って家から逃げたんです。4月でしたね。自転車で20号線をずっと行って。家族にバレないように途中で電話して「ちよっと出かけてくるから」とか言って。小仏峠を超えて東京に入つて、お巡りに「池袋ってどこですか」って聞いてとりあえず池袋に。

池袋着いて西口公園でぼーっとしてました。そしたら手配師（労働者を集める業者）に「仕事あるから来てよ」ってつかまって、土木工事の飯場（作業員の宿舎）に行きました。でも途

中で嫌で出て、また池袋に戻って、また手配師につかまって、っていうのを繰り返してました。

だいたい、飯場って変な奴や口の悪いのばかり。飯食う席なんてどこでもいいのに「ここは俺の席だ」とか言う奴が居るし、ほんとに変な人になると「なんだあ、この野郎っ！」ってすぐケンカ。いや、俺はケンカしないですよ。でも見ると怖くなつて「ちよっとコンビニ行ってきます」と言って、そのままバツクれて東京まで歩いて帰ったりしました。

一番遠かったのが茨城。歩き出して4日目に金が無くなつて座っていたら、通りすがりの人が「どうしたんだ」「もう歩けないです」「じゃあこれで帰れ」って金くれた。

山梨に帰ろうとは思わなかったんですか？

思わなかった。あの家が怖い。いつつぶれるかわからない。思いついたくないけど、震災直後、「揺れないのに揺れてる」という人が結構いたでしょ。俺も家で風呂に入っていると揺れてる気がした。今は落ち着きました

が、震災の後はちよっとの揺れでも怖くて、家を飛び出して一晩路上にいたり。昔はそんなことなく普通に地震があつても「ああ揺れてるか」ってくらいだったんですけれど。

でも、飯場いって、辞めて、を繰り返していると嫌になった。2012年の5月、別の手配師が「新潟行きませんか、寮に行くとお金貰えるから」って言うから、新潟の何とかがつていう業者のやつている宿泊所に行って、初めて生活保護申請したんです。個室で食堂・風呂・トイレ共同という寮で、東京でよくある相部屋と二段ベッドとかの寮と比べてたらまだましだったけど、生活保護を受けたらあと何にもすることがない。毎日ただ寝てる

だけ。早く出たくて、住み込みの仕事を見つけて宿泊所を出たんですけれど、すぐ首になつちゃつて、次の日にまた役所に行つて「新潟越冬友の会」の持っている寮に行つて、手を挙げてくれた不動産屋のアパートに入りました。

うれしかったですね。同じアパートのおっちゃんたちとも仲良くなつて、仕事も派遣でやつてたんですが、隣に神経質な奴がいて、ごちゃごちゃうるさいから2年出てきました。回りから「おめえが出ることねえじやねえか」って言われたんですけど、広島自動車工場の仕事が決まつてたんで。でもそこでもうるせえ奴がいたんで1ヶ月で「俺もう金いらぬから辞め



ますわ」って、東京に戻りました。

そしたら、また手配師にハマって今度は横浜の宿泊所に。生活保護申請して2か月いたんですが、南京虫がひどくて。ほら、ここに今でも食われた跡があるでしょ。一回出てきた。それしたらまた手配師が来て「きれいにしてバルサン炊いたから」って言うから戻ったんですよ。でも全然ダメ。頭にきて出ました。

西口公園で野宿したら、おばちゃんにTENOHASHIの炊き出しのことを教わって、そこで木村さんに相談したんです。



そしたら「ときわハウス」(そのころ運営していたシェアハウス型のシェルター)がラッキーなことに空いていたから入れてもらって、生活保護申請したんです。

どうでしたか？

飯は管理人のKさんが作ってくれて、おいしかったです。一緒に居た人も悪いのはいなかったんですが、困ることがあった。好きなテレビが見られなかった。テレビが食堂に1つしかなかったから。誰かが見たいテレビを見るしかない。

「今日はあれやってんのに、くそ詰まんないの見せやがって」って思っていました。

そこで5ヶ月暮らして、生活保護で敷金礼金を出してもらって、やっと自分のアパートに行きました。

うれしかったですね。「一人になった、ばんざーい!!」みたいなになって。

引越した日に「後で布団が届くからアパートにいてよ」って言われてたんですが、うれしくてうれしくて、アパートを飛び出して自転車であちこち走り

回っちゃったんです。結局、その日は布団を受け取れなくて、3日くらいエアパッキンを巻いて寝てました(笑)。

アパートと寮(宿泊所)で、どこが違いますか？

ぶっちゃけ、寮だと、寝るのは個室でも、飯やトイレでみんな一緒にいるわけじゃないですか。気疲れする。ケンカはしないでですよ。あ、1回だけときわハウスでMさんにブチ切れたことはありました。俺が飯食ってたのに横でぐちゃぐちゃいうから「うるせえこの野郎!」って。そのときはワーカーの小川さんが「次やったら、ね」って優しい声で(笑)。アパートは完全に一人だから気を遣うことない。楽ですよ。



今、仕事は何してるんですか？

最初、日雇い派遣や警備員やっていたんですが、4月からワーカーズコープで池袋西口の道路清掃をやっています。もう6ヶ月になるから、最近で一番続いた仕事。仲間も居るし、当分やるんじゃないかな。時給安いからまだ生活保護を切るだけの給料が貰えないけど。

楽しみはなんですか？ ギャンブルとかやらないんですか？

やらないです。パチンコ、田舎にいるとき1回行っただけ。試しに5000円入れたらついちゃって3000円になったから、調子こいてまたやったら全部吸い込まれた(笑)。競馬競輪もし

ない。だから、楽しみはタバコと酒とテレビだけ。

それで飲んで夜更かし？

夜更かしなんてできないですよ。最近、風呂入って一杯飲んだら飯も食わずに寝ちゃいます。だって朝6時半に家を出るから4時から5時に起きる。「おは4」見ながら支度して。

暴れん坊将軍（テレビ朝日の「おはよう時代劇」。早朝に目が覚めちゃうメンバーがよく見ている）じゃないんですね（笑）
ところで、突然ですが質問です。神様が何でも願いをかなえてくれるとしたら何をお願いしますか？大金持ち？絶世の美女と結婚？

うーん・・・新しい、防音のしつかりしたアパートに入りたい。

うちの近所にもいいアパートがたくさんあるんですよ。歩いてみると、ここいいなあ、とか。

アパートの中はどんなのが？

オートロックで・・・今なら4Kテレビがほしいですね。4Kで野球を見たい。

役所に言いたいことは？

これから生活保護申請する人がいると思うんで、保護費を下げるんじゃないかって世の中の物価に合わせてやってほしい。

俺のためじゃないです。俺、今仕事してるから。生活保護で

もらってるのはほんの少し。

TENOHASIに要望がありますか？

無理かもしれないけど、シエルトラーをもっと増やしたらいいと思う。そしたらもっと多くの人がアパートに行けるから。

ありがとうございます。がんばります。ところで、アキオさんもこういう支援団体と長く付き合うのは初めてでしょ。アキオさんにとつてのTENOHASIとか、日中活動ってどんな感じですか？

・・・「癒し」みたいなもんですかね。普段、仕事して疲れてても休みの日に来たら癒される、みたいな。みんなで馬鹿言っちゃったよ」って反省してるんですけど。もし、ここがなかったら、休みの日はネットカフェ行ったり、家でくだらないテレビ見るだけで、親父ギャグ言っても笑ってくれる人もいない。

本当に反省してるんですか

（笑）？
でも、人間が多いからストレスになったりしません？

ない。馬鹿言ってるから。ストレスはたまらない。暇なんで。このところ仕事が午前が多いから午後暇なんで。

心配はいつまでこの団体が続くのかなというのが心配。TENOHASI、お金がないんですよ。でも、続けてほしい。5年10年と・・・ホームレスの人がゼロになったらもう要らないじゃない。その時まで続けてほしい。



「おかしくないか」「って思う」「とが全ての根源！」



畔柳さんが初めて池袋の現場にきたのはいつでしたっけ？

2008年秋の炊き出しですね。もう10年になるんだ、早い！

なんで医療系の国際NGOが池袋の炊き出しに来たんですか？

世界16カ国に事務所を置いて75カ国で340のプロジェクトを展開する国際NGO・世界の医療団は、2010年にハウジングファースト東京プロジェクトが始まってからずっとプロジェクトの中心的な役割を担ってきました。

それにしても、「どうして医療支援の国際NGOが池袋で路上生活者支援をしているの？」と言う疑問をお持ちの方も多いと思います。プロジェクト発足当初から一緒にやっている世界の医療団・畔柳（くろやなぎ）奈緒事務局長に疑問をぶつけてみました。

世界の医療団はフランスで始まったNGOですが、基本的に事務所のある国では国内でも医療支援活動を行います。医療から疎外されている人々はなにも遠い国にだけいるのではなく、自分たちの近くにもいるのだ、という考えからです。

日本では95年に事務所を立ち上げましたが、なかなか直接的な支援活動が出来ていませんでした。私の前任の事務局長がフランスから着任した時のタスクの1つが「プロジェクトの実施」だったんです。最初に着手しようとしたのは、形成外科の

短期ミッション「スマイル作戦」。世界の医療団フランスが主催するミッションで、その時に既に10年近く日本人ボランティアを派遣していましたが、それを独自に運営しようとしていました。でも隣で見ているとなかなかうまくいかず苦労していたので、そのころ入ったばかりだった私がついつい「手伝いましょうか」と言ってしまったのが運の尽きでしたね（笑）。「スマイル作戦」が安定した後、次に取り掛かったのが国内支援でした。

世界の医療団がフランス国内で何を行っているかを調べたところ、多くの活動をしていましたが、主にはホームレス、セックスワーカー、ドラッグユーザーへの支援活動でした。私たちが日本で何ができるかを考えた時、そのころは職員が女性3人だけという小さなチームだったので、セックスワーカーは自分たちの安全管理の点で不安があり、ドラッグユーザーは日本

ではそれほど大きな問題になっていないのがヨーロッパと違うところかな、そうなるとうホームレスが一番役に立っているのではないかと考えました。

そこで、いろいろ調べてみると、池袋にホームレス支援をしている面白い精神科医がいるという話を聞きました。それが森川すいめいさん（TENOHASUIの創設者・現副代表理事）です。「精神科医？いいじゃない」と話が進み、すいめいさんと会って見たのが始まりです。

ちょうどリーマンショックから年越し派遣村の年ですよ。

はい。その頃、すいめいさんたちが路上生活をされている方々を対象として精神や知的障害についての調査活動をするの聞いたので、その調査にも参加させてもらいました。結果を見て、新しいアプローチが本当にその層に必要なならば、ぜひ一緒にやりたいと思っていました。

その時に初めて路上の障害者の問題が俎上に上がったわけですか？

実はフランスでも、すでにパイロット的なプロジェクトを始めていて、私も見に行っていました。その後、日本にも2回来たあの精神科医のヴァンサンがマルセイユで始めたプロジェクトです。精神症状や依存症を抱えるホームレス状態の方々に住まいを提供し、医療者、ピアワーカーで伴走生活をする、という。自分たちのネットワークの中で既にそういった取り組みが行われていたのと、世界の医療団フランスからの後押しもあり、これなら自分たちの知見

を活かせると考えました。

そういう意味ではうってつけだったんですね。

「あ、みつけた！」っていか、「飛んで火に入る夏の虫」というか(笑)。しかもリーダーにすいめいさんという不思議な人が(笑)・・・。

年が明けた頃には「ホームレス×メンタルヘルス」で一緒にやりましょうという話がまとまりました。それからプロジェクトのコーディネーターとして、中村あずささん(TENOHASSIの初代代表)に参加してもらい、準備を開始しました。

世界の医療団内部の人材を充てようとは思わなかったんですか？

内部の人材と言っても、その時は人もいませんでした。あずささんが5人目のスタッフ。私はいろいろな現場に行って事業を立ち上げるところまでやりますが、それぞれについての専門性があるわけではないし、そのまま現場で事業運営に携わり続けるわけはありません。適材適任の方を見つけて、一緒に立ち上げて、後はお願います、ということが多いです。

なるほど。ところで、例えば山谷の山友会クリニックの無料診療のように医療支援をしている支援団体は他にもありますが、どうして池袋だったんですか？

世界の医療団が目指すのは、医療ニーズがあるのに医療が届いていない方々へ新しいサービスを提案し、提供することです。「こういうやり方もあるんじゃないの」って。既にその国にあるサービスを私たちが平行して提供し続けるというのは、どの国でも行っていません。

それまでの世界の医療団の日本での主な事業はなんだったんですか？

先ほどお話しした「スマイル作戦」という国外の形成外科の事業を2006年からカンボジアで、2009年からはバングラデシュで短期、反復の事業として始めていました。次は国内プロジェクト、その次は国外長期プロジェクトにチャレンジしようとしていました。2005年までは資金調達が中心で、具体的に事業を展開するだけの力がなかったのです。

世界の医療団がちょうど大きくなる時に畔柳さんが入ったんですね。

そうですね。私が入ったのが2006年ですから・・・もう12年。こわーい(笑)。

ハウジングファースト東京プロジェクトも8年目。当初、3年間のプロジェクトと考えていたけれど、フランスから視察に来た同僚の方が「とても3年では終われない」と話して延長になったと聞いたような気がしま



世界の医療団事務局長 畔柳奈緒さん



夜回りパン作りメンバーと

あったし、かなり濃密な8年だったんじゃないですか？

振り返ってみると「よくやったなあ」と思うことはあります。でも、渦中にいる時は、それはもう必死でした。

東日本大震災支援では、大槌町に支援に入りましたが、最初の3か月は宿舎で男女一緒に雑魚寝です。私の隣にすいめいさん、反対側に泉水さんが寝ていたり。今だったら考えられない。でも誰も文句言わないんです。被災地の避難所では、被災者の方は体育館で雑魚寝状態でした。私たちは、車で1時間かけて毎日宿舎に帰るのですが、お風呂と布団があるだけでもありがたいと思えました。

清野さんも大変でしたね。派遣切りでものすごい人数が炊き出しに並んだり、炊き出しの公園が閉鎖になったり。なぜ続けるんだらう？と思ったことないですか。

ええ。でもリーマンショックから派遣村・民主党権発足という流れで、ようやく日本に貧困問題があると認知されてきた

頃でしたから「ここで炊き出しをやめるわけにはいかない」と思ってたモチベーションが高かったですね。

そういえば、民主党政権の長妻厚生労働大臣が夜回りの視察に来るといって話があつて、コースの検討や諸々準備したけれど、結局SPから反対されて中止になったりしましたね・・・。

その時々には必死だから、楽しんでたのかも、と今は思えます。でも、もう一回やれと言われたらちよつと(笑)。

この8年をいくつか時期に分けたらどうなりますか？

地に足をつけるところに結構時間がかかりましたね。そこまでが第1段階。

それができて、次にアドボカシーをきちんとやってくださいと言いだしたけれど、なかなか着手出来ない苦しい時代が続きました。その頃が第2段階。

そして今、本当にいいところにやつと来られたのではないかと。思います。人と人がつながって、特にピア(当事者)の人たちがきちんと中に入って関係性

すが・・・

福島の仕事でも同じことを言われました。「変えるべき事を変えろ」というゴールを設定して、そこを目指しての活動を、目的意識を持ち進んでいくという事は大切ですが、3年ですばつと終わっているプロジェクトは世界の医療団フランスの事業でもあまりないように思います。

それにしても、途中で震災も

を構築しています。生きたネットワーク・生きたアクティビティにすることはすごく時間がかかることですから。そして、参加している各団体が「ハウジングファーストとはなんだ」と深く知って、それに対する考え方を持って取り組んでいこうという事も出来つつあると思います。現場の活動は今で十分。さらに調査研究チームに熱意のある医療者、研究者が揃っている、きちんとデータを採り、分析し、その成果を形にすることが出来る体制になってきました。そういう意味で、今やっと第3段階に入ったところで、この1、2年でさらに良くなる、さらに進めると期待しています。その活動がステップアップしていくようにサポートして、ホームページなどでも外部に発信するのが私たちの仕事だと思っています。

今後の展開をどう考えていますか？

まずは今の調査研究を進めて、厚生省・東京都・豊島区など各方面にきちんと話したいと考えています。そしてどこかの行

政と一緒に、私たちがきちんとハウジングファーストと言えるような事業が・・・、「ハウジングオンリー」ではない事業ができたらいいですね。我々だけが孤独な戦いを続けている時代を終わらせたい。

そしてパイロット事業から各地に広まって、厚生労働省でも予算がついて、それが当たり前になるように・・・ということですね。障害者福祉でも、親たちが手弁当で作業所を作ってきた時代から、行政の予算が付いて就労支援事業所がどんどんできて民間の株式会社が入る時代になりました。障害者の不妊手術の問題も、昔は当たり前だと思われていたけど、今だったらあり得ない。

その当時は当たり前とされてきたことが、後日、そうでなくなっているために闘わなきゃいけないのだろうと思います。「おかしくないか？」って思うことが全ての根源だな。去年、ロヒンギヤの難民キャンプに最初に調査に入った時、理事に言われました。「どれだけ憤るかだ」って。「そうだよなあ、いつも

そうだ」と思います。

こんなに豊かな国で、路上で生活している人がこんなにいるということがやっぱりおかしいと思います、心の底から。でもそれをおかしいと思わない人がたくさんいることが、既におかしいと思うので、そこはものすごく疑問に感じます。でも問題はホームレスネスだけではない、いろいろなことだと思います。

例えば、今は結婚してすぐ仕事を辞める女性は少ないと思いますが、子ども2人が生まれた後も働き続ける女性になるとその人数はぐっと減ります。1人目出産後は頑張って復職しているけど、2人目だと育児と仕事の両立がどうしようもなくなるっていう状況があると思います。もちろん親として子どもの近くにいたいという思いもあると思うけれど、望んでいなくても辞めざるを得なくなるということがありますよね。それがいつも女性だというのが・・・。旦那さんの方が稼ぎがいいということがあるかもしれない。となると、同じ仕事をしていても、男性のほうが報酬が多いというのも問題だし、そこらへんからもおかしい。

すべての課題を一気に解決することはできないけど、少なくともいろんな選択肢があること、そうした選択肢があることを誰もが知っていて、社会がどうあるべきなのか、こういう社会に住んでいたい、ということを経験者が普通に考えられる社会になつてくれたら、と思います。自分も、いろいろな意味で視野を広げなきゃいけないと思いますけれど、普通に日常を生きている人たちが「今、見えてないことが世の中にあつて、そこに関わることで豊かになることがある」と知って、いろんなことに興味をもって、不条理なことに、不正なこと、少ない社会になつてほしいと思います。不条理や不正に目を伏せて「幸せ」を謳う社会は違う、と、私は思う。

世界の医療団は国内・国外とも様々なプロジェクトを展開していますが、このプロジェクトというのはどんな位置づけでしょうか？

私たちにとって、ものすごく大切なプロジェクトです。本当にいろいろな意味で。

国内では福島と池袋、国外ではラオスの小児医療・ロヒンギヤ支援・スマイル作戦を行っています。年間予算の10%弱が池袋に投じられています。年間およそ1500万円くらい。それ以上に、活動の現場が事務所、の近くにあること、特に大切なことなんです。私たちが何のために存在しているのか、これほど近くに感じさせられる現場を持つことは、かけがえのないこと。当事者もよく麻布十番のオフィスに遊びに来てくれますし（笑）。

ただ一般的にまだまだ、数年前の滝川クリステルさんが白衣を着た医療者と並んでいるポスターに見られるように、海外で活動するなんとなくおしゃれな団体というイメージが強いと思います。それがなんで池袋のおっちゃんたちのことやつてるんだ、という疑問を持つ人が多いと思います。

そうなんですか！？

だって「世界」ですからね（笑）。世界って日本も入ってたんだ！池袋も「世界」だったん

だ！と(笑)。

私たちにとって活動の対象は人。その人が医療にアクセスできていないということが問題で、その人がバングラデシユにいても日本にいても、男でも女でも子どもでも高齢者でも、イスラム教徒でも仏教徒でも、そこは全く関係ありません。同性愛者でも、ドラッグユーザーであっても、セックスワーカーであっても、刑務所に入っている人であっても。そういう意味では、より普遍的な人に紐づいている権利としての医療、健康的な生活というところに働きかけているというシンプルなことなんです。私自身も、ここにいっても、カンボジアやミャンマーにいても、何も変わらないです。フランスに行っても、どこに行っても、同じなんですけど。それ以外には分かりにくいのかなあ、・・・何ででしょう？

例えば難民キャンプで、日本から派遣された医師や看護師が活躍している姿は、とても分かりやすいですよ。でも、池袋で元ホームレスの人とシルクスクリンで手ぬぐい作ってる、



シルクスクリンで手ぬぐいにプリント中

って何のため？と思う人が結構いるように思います。どう繋がるんだろうと。

確かに緊急支援は分かりやすいです。地震や紛争があると、注目され寄付も集まります。もちろん緊急事態にも介入しますが、目指しているのはそこではないんです。人権が損なわれている人たちの権利、その人たちの中にある力を本人が行使できるようにすること。そのために「エンパワメント」ということ

を大切にしています。「エンパワメント」というのは、自分たちも含めて「できること」を増やしていく、自分の持つ当然の権利を行使して、人として幸せに生きるということだと思えます。と言ったら、まさに「ここ」(池袋)じゃないですか！シルクスクリンを習うことで出来ることが増え、誰かにつながる。さらに日中活動で作った石けんや手ぬぐいを配って、それをもたらした皆さんが身体を清潔に保つたことにもなります。「ここ」にいるのは、私たちにとって活動の根源に直結するほど意味があること。でもなかなか伝わりにくいのかな(笑)。

そうですね。私が普段の生活で接する人の8〜9割が何らかの社会的活動をしている人だと思えます。自分がそういう特別な世界で生きているということとを、常に忘れないようにしようと思っています。より多くの人に社会的な活動に関心を持ってもらいたい、そのために何をやるかが、勝負なんですよね。夫は社会活動家ではなく、こうした支援活動とは遠い生活をしていますが、その夫に良く言わ

れます。「ほんとに君のところは何している団体なのかわかりにくい。自分は近くにいるから分かるけれど、そうじゃない人は絶対わからない」と(笑)。自分たちの世界とは違う人たちと話をしたりすることは、大切なことだと思っています。知ってもらうこと、伝えること、話すこと、聞くことが、やっぱり大事なんだと。

ただ、社会的な課題に関心がないこと、参加しないことを責めるようなアプローチは本末転倒だとも思います。

逆効果ですもんね。普通の人たちもいろんなところで我慢してて、エンパワメントされるどころか職場でひどい目にあったりするので、「汗水たらして働いている俺たちがこうなのに、なんでこいつらが支援されるんだ」とかいう反発はありますよね。

まさに同じ議論がロヒンギャ難民をめぐるって、バングラデシユでも起きています。「バングラだって貧しくてこんなに苦労しているのに・・・。確かに難民はかわいそうだよ、でも私た

ちは？」と言われると返す言葉が見つかりません。外部から行く人たちはホストコミュニティをきちんと巻き込む、提供すべきものは提供するということをしないと、そういった意見は噴出してきますね。

では残り時間で、なぜ畔柳さんがそういう人になったかというのを伺いたいんですが、子どもの頃ってどんな感じだったんですか？

子どものころ・・・お転婆でしたね。わがままだったし、今でもわがままですけど・・・。反抗期がひどかったですし・・・。この間マッサージに行ったら「何で膝にこんな傷があるの」とびつくりされて、「みんなは無いんだ！」って逆に驚きました。よく転んだりしていたので。とにかくお転婆で男勝りでした。姉と弟に挟まれた真ん中の子なので「埋没しないよう頑張らないとダメだ」という立場にいたからだと思えますが、とにかく昔から好きなことなんでもやりたがる子だったと思います。10歳くらいの誕生日に、スケボーが欲しかったのにももらえ

なかったことを今でも恨んでる（笑）。理由が「危ないから」なのか「女の子だから」かわからないけれど「駄目だ」って言われたのに、その後4つ下の弟がスケボーを買ってもらって「なんで私はダメなの!!」みたいなのはありました。

1つ上の姉が中学入る前に1年間英語を習っていて、次の年に「私も」って親に頼むと「行かなくていい。あんまり役に立たなかったから」って（笑）。「えええー、それ、おかしい」みたいな。悔しい思いは今でもはっきり覚えています。

それで海外に行く仕事がしなくなっただけですか？

それはどうなんでしよう？
そういえば、水泳をやっていました。小学校5年くらいから高2まで競泳をやっていたので、常に自分と向き合っていました。何でも自分で考えないといけないし、記録が出なくても自分のせいなので。

じゃあ中・高と、学校の部活はしないで競泳を？

はい、基本的に協調性がないので（笑）。中学校時代は、いわゆる反抗期で親にも先生にも反抗していました。もし、清野さんが私の学校の先生だったら、ものすごく叱られたんじゃないかと思えます（笑）。成績は悪い訳ではなかったのですが、何か言われると「それで？」みたいな感じで返す、怒られたら「それ、おかしいと思えます」みたいに言い返していました（笑）。

高校は都立で自由だったので自分に合っていました。大学で何を学ぶかって考えたとき、理系じゃなかったので理系は全部消去して、文系で社会学とか心理学なども考えました。でも、それまで映画などで興味を持っていたこともあって、フランス語やフランス文学を学べば世界が広がるかも、と考えるようになりました。指定校推薦で進学したので、フランス系の学科が二つあり、どっちにしようかなと思って願書を出したところ晴れて受かった仏文科に進むことになりました。

仏文科ですか？

はい。語学だけだと世界が狭

まるかなとも思っていて、仏文科にしたんですけど、「読むのは好きなんだけど、研究するのは嫌だった」ということに入ってから、語学のほうが面白かったなと少し後悔。フランス語って面白いんですよ。一人称二人称三人称で動詞が変わっていくとか、この前置詞を使うと同じ単語でも大きく意味が変わったりするとか。2回、フランスにも留学しましたが、その時はとにかく語学を一所懸命勉強しました。

ええ？？それって何か難かしそう・・・

いや、一応理屈があるんです。ただひたすら覚えなくちゃいけないことも結構あるんですが。大学4年生で1年間交換留学しました。行ったらびつくり、すごい田舎町で。「ここに1年住むのか？無理」と思ったくらい田舎町でした。磁器のリモージュ焼で有名なリモージュと





リモージュ留学時代

いう町なんです、フランス語で「リモージェ」という動詞があって「左遷される」っていう意味なんです。フランス人にリモージュに居たというとみんな「ぶ」って嘖き出します。でも誘惑されるものが何もない街なので、落ち着いて過ごせました。卒業して、フランス語を使っていた仕事をしたと思って、ワイン会社に就職しました。ワイン好きです。その後で、またも「飲むのは好きだけど売るのはどうでもいい」ってことに気が付きました。

おいおい(笑)

1年半でその会社を辞めて、通訳のバイトとかしながらぶらぶらしていました。ある日、友達に誘われて、フランスのバッグのブランドで働き出したんで

すが「バッグ買うのは好きだけど、売るのはなあ」って・・・

(爆笑) 同じパターンですね。

はい。やはり1年半で辞めて、親にも「1年半しか続かないのね」と言われました。「そうね。でも『来年の流行色は白』とか、どうでもいいの、私。全然愛せない」と言ったのを覚えています。

で、その後ももう一回フランスへ留学しました。すっかり語学をやるうと思って、その留学ではかなり勉強したなあと思います。

その時はもう結婚していたのですが、夫を日本に置いて行きました。そのやはり1年半後、夫から「アメリカに転勤になった。ぜひついてきてほしい」と言われて、最初「いやだ」って

言ったんですけど(笑)、フランスでの生活をサポートしてもらっていたのもあり、これはダメだ、断れない、と断念して結局フランスからシカゴに行って1年暮らしました。大してやる事もなかったもので、苦手だった英語の勉強に励みました。打ち込みすぎて「君、何しに来たの？」と夫に言われました・・・その後、日本に帰国して「そろそろちゃんと働こう、ここまで好きなことしてきたから、社会に還元しないと」と、仕事を探し見つけたのがシャンパーニュ委員会という素敵な響きのところ、モナコ観光局と世界の医療団だったんですよ(笑)。

普通は・・・モナコ観光局じゃないですか？

「モナコなあ・・・」みたいな。あんまり魅力を感じなくて。「シャンパンは飲むのは好きだけどなあ、売るのは嫌いだったじゃん」って。

同じパターンですね(笑)

やっぱり世界の医療団が社会的還元が一番いいのではないかと

と思って入ったのが、運の尽きでしたね(笑)。

でも、聞く限りではとてもインDEPENDENTな女性がちょっとおしゃれなところに行つては「フフツツ」てフリーな感じで生きていて、あんまり社会的なことには、まさかこんなところで元ホームレスのおっちゃん達とこんな風に・・・

でも、大学の卒論テーマはリモージュの労働運動だったんです。パルクミュールの時代にフランス全土で労働運動が盛り上がつて、リモージュでも磁器職人が力を持っていたので、同時にそうした運動がありました。仏文科でしたが、ゼミでは歴史を専攻していました。最初から労働運動をやりたいと思っていました。高校生の時に原発反対の本を読んだりして、そのころから権利意識や「人間が面白い」という意識があったんですね。

「わたくし、二度おフランスに留学いたしましたの。ワインやブランドバッグの会社にお勤めしてました」みたいな感じかと思いましたが(笑)。

ワインを飲んで、バッグの話をしたりすることも好きですが、根本的に凝り性でもなく、人生かけるほどの興味がある訳ではないので、1年半が限界なんだと思います。

フランス語を勉強し、労働運動をテーマに卒論を書き、英語大嫌いでしたけどシカゴの1年で何とかして・・・そういう経歴がすべてにおいて帰結するのが今の仕事なんですね。ある時、思いました。「あ、全部繋がってる。来るべくして来たんだ、気持ち悪い」(笑)と。

運命の糸に、きゅーっとな(笑)。

めっちゃめっちゃ不思議ですけどね、でも出会えてよかった。世界の医療団もフランスのスピリットみたいのが根底にあって、それが「権利を求めて運動することなんです。すごくしつくりっています。

やっと巡り合えた天職ですね。しかも、初めて1年半以上続いた仕事(笑)。

みんなびっくり(笑)。家族

からも「いやあ、すごいね」って3年目くらいで驚かれました。

日々、自己記録更新中ですね。定年があるかどうか知れませんが、定年まで？

いやー、それはちよつと。お邪魔になる前に辞めたいなど。今はまだやることがあるのでやっていますけど、お邪魔になる前に。早く。

次にやりたいことがあるんですか。

いや、無いです。今やっていることが本当に面白いので。

ただ、このままここに居続けちゃいけないだろうとも思っていて、キリがいいところでちゃんとバトンタッチしないと。組織がずつと同じ誰かにリードされていたら、その人の能力や考えから出ていけないじゃないですか。それは良くないのです。

それはTENOHASIも一緒です。どうしたら後継者を見つけれらるんだろうと日々思っています。鉦や太鼓を叩いてるんですが、出てこない。

悩みどころですよ。私も無駄に長いので、私の色がついてしまっている気がしますし、それを壊してくれるくらいの強烈なキャラを見つけない。組織って、ポストと人に紐づきます。同じポストだからといって、次の人に全て引き継げるとい

とはないので、去る時は多分、本当に、大変だろうなと想像しています。でも、なんとか、ちゃんと次に回していきたい・・・ですよね。お互い、次の課題はこれですね(笑)。



シルクスクリーンで作った手ぬぐいの配り方を検討中

特定非営利活動法人TENOHASI



2018年総会報告 その2

2018.6.2

生活応援班

1、生活相談

①相談者数

・炊き出し

相談者115人（1回平均5人）

うち生活保護・自立支援センター利用申請同行等60人

相談のみ55人

・夜回り

相談は月に5人程度

生活保護同行等の支援を行ったのは37人。

②相談スタッフ

戸口さんが7月から産休・小川さんが11月から介護休に入られ、後半はなかなか苦しい展開に。

しかし、4月から町田の田中さん・宮木さんがコンスタントに炊き出し・夜回りの相談と申請同行に参加。炊き出しの相談でもべてぶくろスタッフとKAZOC野上さんが参加してくださり、どうにか乗り越えた。

2、ハウジングファースト

2017年度は豊島区内で9部屋のアパートを使って「路上生活から直接アパートへ」の実践を行いました。

利用者合計20人

内訳

長期利用中3人

自分のアパートに転宅7人

失踪2人

死亡2人

入院1人

シェルター利用中5人

3、支援のエピソード

・Aさん

ガンを患い「最期は自分の部屋で」と望まれた60代後半の男性。ハウジングファースト実践でアパートに入居された。

交際関係が広く、金の貸し借りが頻繁なために、金欠になることもしばしば。人に迷惑を掛けることをとても嫌うために、金がなくなったら食事もせずにひたすら我慢ということもあり、訪問が必須。たまたま通りかかったふりをして、食材を少しず

つ届ける。ポケットマネーで、好きなお酒（ワンカップ）を忍び込ませたり。

急変して亡くなったのは7月の土曜の朝。訪問看護師からの連絡を受けてお宅に直行。誰もいない部屋で二人きり、線香を焚いて、斎場等などの手配。ご遺体運びを手伝い、その後部屋を片づけなど。

・Bさん

長く路上生活を送ってきた高齢女性。TENOHASIとの関わりも長いが、とんでもない痛癢持ちで、幾度となく支援拒否や失踪の過去。

ある日、バスで移動中に駅前公衆トイレ脇に段ボールを広げて座り込んでいる姿を目にして声を掛けた。寒さに耐えかねて豊島区福祉事務所に助けを求めたものの、施設入所を勧められ、いったんはその気になったが、気が変わり、施設へ向かう途中の車を降りてそのまま失踪してきたと。

「施設はこりこりだが、アパートに入れるなら世話になりたい」との言葉があり、ハウジングファーストを検討。2週間以内に物件を見つけて、つくるい

東京フアンドを通してアパートを法人借りし、福祉事務所に事前に話を通し、賃貸契約書を携えて生活保護申請した。

住民登録も難航した。きわめて短気で、役所での手続きを完遂することができないため、本人の曖昧な記憶を頼りに、住民票を見つけ出し、委任状などを「駆使」してようやく住民登録。入居後も大家との衝突などもあり、定着は難しいかと懸念したが、1年経った現在も住居を維持、支援も継続中。

・Cさん

80代男性。池袋駅構内で、かつて優しい声を掛けてくれた森川すいめいさんの再訪を待っていた。豊島区内での生活経験もあり、豊島区福祉事務所にはお馴染みの人物。恋女房を亡くした後に、生活が崩れて路上生活になった。

シェルター（しいなハウス）での数ヶ月の生活を経て、アパート転宅のOKが出た。高齢であることでアパート探しは難航したが、運良く銭湯隣のアパートの広い部屋に入居が決まる。福祉事務所での転宅費用の受け取りに同行し、アパート契約

も済み、いよいよ入居というタイミングで福祉事務所から受け取った家具什器費（新居に必要な家具等を買うために支給される保護費）を持って失踪。注文してあった家具類が届くも本人は不在。何度電話しても通じず、そのまま3日が経過。

重い足取りで福祉事務所に報告に行く。もしかしたらとの思いから、ショートメールは送り続ける。あきらめかけていた3週間後、SOSの電話が。1年近く経った現在、アパートで静かに生活を続けておられる。

・Dさん

70代男性。池袋東口の公園で行き倒れのような状態になっているところを夜回りで出会う。生活保護を他区で受けていたが、病院を退院した後にケースワーカーと喧嘩し、生活保護を辞退してきたと言う。それからタクシーで池袋へ来たものの、足腰が痛くて歩くことができず路上にへたり込んだと。お金があつたので、ホテルに泊まろうとしたが、歩けない状態ゆえに何軒も門前払いされた、生活保護を受けながら簡易旅館で6、7年

間暮らしていたが、その間に少しずつお金を貯め、貯金が何と150万円以上にあるという。とにかく歩くことがままならないので入院が必要と考え、豊島区福祉事務所に相談するも、お金がある以上、生活保護は受けられないとの返答。2カ所の病院に直接交渉したが、医療保険に加入してはいないため、また、身体にこれと言った異状はないため、入院を断られる。

当面の宿泊先探しも難航し、最終的にいつもお世話になってるビジネスホテルのフロントさんを呼び倒して、ホテルに宿泊。歩けないので食事はすべて配達した。

豊島区高齢福祉課に相談し、措置入所という形での施設入所を認めてもらったが、ご本人が施設入所を拒絶。その後、ある程度歩けるまでに回復したので支援者が総力を挙げてアパート探しを行い、板橋区のアパートに落ち着かれた。いまはコンビニに買い物に行くのを楽しみにされている。

・Eさん

シェルター・ちはやハウスを

利用された70代男性。ちはやハウスで8か月生活してようやくアパート転宅を認められ、分譲マンション系の快適な部屋をゲット。

ところが、もともと「社交嫌い」で、頼んでも携帯電話を持ってくれない。マンションがオートロックでインターフォンを使ってロックを解除して貰う近代的システムであることが予想外の裏目に出た。インターフォンの使い方を覚えてくれないので何度訪問しても会うことができない。電話もない。

切羽詰まって、コソ泥のようにマンションの裏手に回り、ペランダ越しにサッシ窓にメモを貼り付けること幾度か。

今も「ひきこもり」がちではあるが、訪問看護を快く受け入れている。インターフォンの使い方もマスターされた。



夜回り 毎週水曜日

★おにぎり・パン作り

夜回りで配るパン作りを13時（子ども食堂がある日は11時）からあさやけベーカリーで、おにぎり作りを18時半よりべてぶくろで行っています。

おにぎりは主に非常食のアルファ米を使用しています。製造数は120〜150個程ですが、そのうち40個弱はあさやけベーカリーでパンと共に作って頂いています。おにぎり、パン共に味や種類を変えるなど工夫しています。加えて手作りラスクや東池袋のワーカーズコープよりおにぎり等の寄付を頂くことも多く、この場にて御礼申し上げます。

21時前に出発、タクシーにおにぎり等を積み込み、池袋駅前公園へ向かいます。パンは気温や湿度によって出来が大きく左右されますが、路上生活者からとても好評です。

★夜回り

毎週水曜日21時半に池袋駅前公園にて、並んだ方にチラシやおにぎりを配り、その後5コ

ース（いけふくろう、有楽町線、西口、東口①②）に分かれて駅地下や路上、公園で寝ている方を訪ねて回り、路上生活者等からの相談には、内容に応じ専門スタッフが対応します。昨年度は合計164件の個別対応を行いました。夜回り1回当たりの平均は3.03件でした。前年度比で合計数は+50、週平均は+0.92と大幅増でした。

内訳はこのページ最後の件数表をご覧ください。

また、昨年の総会で引率者より要望が出た東口コース分割を8月に実施、支援充実に当てる事が可能となりました。

★ボランティア

昨年度は、新規の参加希望者は月2回行っているボランティアセミナーを事前に受講してから参加申し込みをする体制に完全移行しました。

これにより新規参加者は一年を通して安定的になりましたが、参加基準を上げたために増加には至りませんでした。

昨年度のボランティア参加者数平均は全体で19.7（前年度比4.7）人、うち新人は1.5（同1.4）人でした。

★夜回りのコース別現状解説

※事前に各コースの引率者にアンケートを取りました。

- ①：昨年度の概況
- ②：夜回りで心がけていること
- ③：現在の問題・課題、要望等

●いけふくろうコース

①東武側地上に大人数で固まっているところがある。

②体調や生活に関して話せる環境づくりを心掛けている。

③年度後半から人数が減ったのでコース順路を再考したい。

●有楽町線コース

①新規路上生活者が昨年より増加し、より高水準に。

②コース内に持病持ちの人がおり、都度医療班につなぐ。

③ボランティア参加人数の変動が激しく不安定になりがち。

●西口コース

①既に就寝中か寝床のみの無人状態が多い。

②起きている人には困っている事など積極的に訊いている。

③より話し掛けを行い、路上脱出する人が増える事を願う。

●東口コース

①大半は長期路上生活で、昨年度との変化には乏しい。

②たとえ一言であっても挨拶や

声掛けを大切にしている。
③路上生活者のニーズを読み取り、いかに高い意識で臨めるか、路上生活者に向き合う姿勢が問われる。

夜回り個別対応件数表

（2017年度 全54回）

	新規	体調	支援	コース計
駅前公園	2	3	14	19
ふくろう	27	20	12	59
有楽町線	36	8	3	47
西口	14	2	0	16
東口	12	3	8	23
合計	91	36	37	164

注記：新規→新規路上生活者 体調→体調不良者
支援→生活支援希望者 ※越冬期間中の2回を含む

お知らせ

- ・今号から会報誌のweb版をインターネットのサイトにアップします。
* 個人情報保護のため「資金/物資のカンパありがとうございました」はweb版では削除しています。
- ・それに伴って、今後は紙の会報誌は不要という方は、お手数ですが「お問い合わせフォーム」からのメールや、電話・はがき等でご連絡ください。
- ・会報誌を出したらメーリングリストやブログ・ツイッター・フェイスブックでお知らせします。メーリングリストに参加ご希望の方はメールアドレスをお知らせ下さい。

□TENOHASIの活動

- 炊き出し 毎月第2/第4土曜日 東池袋中央公園
- おにぎりと夜回り 毎週水曜日
- ハウジングファースト東京プロジェクト 路上脱出支援・安定した地域生活への移行支援
参加団体：TENOHASI・世界の医療団・べてぶくろ・あさやけベーカリー
訪問看護ステーションKAZOC・つくろい東京ファンド
SWOC/ゆうりんクリニック・Habitat For Humanity・BaseCamp

□ 活動資金のカンパをおねがいします！

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI
銀行振込 ゆうちょ銀行 019(ゼンイチキウ)支店 当座259686 トクヒ) テノハシ
クレジットカード決済 ホームページからお願いします。

□ 物資カンパも大募集中！！

衣類（季節にあったもの。スーツや女性ものは不要）・靴・毛布・カミソリなど
食材（米・缶詰・レトルト食品など。） *【送り先】下の「発送元」らん参照

□ 寄付・ボランティアのお問い合わせ

メール：TENOHASIホームページの「お問い合わせ」から
電話：090-1611-1970(事務局長 清野賢司)

特定非営利活動法人TENOHASI
会報第38号
2018/12/1発行
□ホームページ <http://tenohasi.org/>
□メール tenohasi@yahoo.co.jp
印刷 アビーム(社会福祉法人復生あせび会)

発送元
〒177-0045
練馬区石神井台6-1-28
TENOHASI事務局
TEL 090-1611-1970

